

9 心安かれ

神の目からご覧になれば、私の罪は緋（ひ）のように赤く、悔い改めはいいかげんで、信仰もまた無きに等しいものであろう。それでも神は、時にかなうお叱りと共に、私に祈ること、すがることを許したもう。神は直ちに御手を広げて、生半可（なまはんか）な私を、退（しりぞ）けることなく受け入れたもう。私は血潮したたる十字架の主を仰ぎつつ、さらに必死で祈り、すがる。「子よ、心安かれ、汝の罪ゆるされたり」この天来の細き御声を、いくたび聴いたことであろうか。私の心は、この御声によって安らぎ、支えられ、生かされてきた。砕かれた魂をもって主を仰げば、細き御声はさやかに聴かれるであろう。来たりて仰げ、十字架の主を。

『復活』第338号 1994年11月